



社団法人 日本理学療法士協会

富山県士会ニュース

平成18年度 3 (通算 103号)

総会員数 325名 (休会31名)

全102施設

2006.12.15 発行人 日本理学療法士協会 富山県士会
〒936 0023 滑川市柳原149 9 富山医療福祉専門学校 理学療法学科内 ☎(076) 476 1716
代表:塚本 彰 編集:赤尾健志 印刷:志貴野苑
士会URL:<http://toyamapt.umin.ne.jp/> 事務局アドレス:toyamapt-office@umin.ac.jp

CONTENTS

生活支援系研修会



管理運営研修会	2	理事会報告	7~8
リハビリテーション研究懇話会	3	事務局インフォメーション	9
生活支援系研修会	3	情報管理部の窓口から	9
ベトナムCBR体験記	4	編集後記	9
納涼祭・転入会員紹介	5	平成18年度賛助会員名簿	10
士会員の独り言	6	平成18年度求人広告	11~14
福江明氏表彰される	7		

管理運営研修会

「今、求められるマネジメント」を開催して

10月20日（金）・21日（土）の2日間、県民会館にて、管理運営研修会「リハビリテーション部門のマネジメント」 今、求められるマネジメント を富山県士会主催、(社)日本理学療法士協会共催で開催しました。当初予定していた人数を上回る34名の参加がありました。

研修会1日目は、「理学療法に今、求められるマネジメント」に中屋久長氏、森本栄氏、「応用行動分析学から見た人間関係」に山崎裕司氏、2日目に「これからの管理・運営」に伊藤隆夫氏、「リハビリテーション現場のアクシデントを検証する」に鹿内清三氏より講演して頂きました。

今回は、経験年数が5～6年目の方々の参加が目立ちました。これは、近年の急速な理学療法士の増加により、スタッフに同年代が集まり経験年数に関わらず部門の管理・運営を行う立場となった方々が増えてきた影響によるものだと感じました。また、制度の改正や理学療法士を取り巻く社会環境の変化に合わせた内容であったため、管理業務のみではなく、1人の理学療法士として置かれている立場や、スタッフ間、他職種間との連携を意識させられる研修であったと思います。研修中は、受講者からの活発な意見・質問が飛び交い、日々の業務の参考になったのではないかと感じています。今後も、職場の管理運営で悩まれた方などは、是非参加していただきたいと思います。

「教育・管理系研修会」に参加して

射水市民病院 中村 太輔

10月20日・21日の2日間にわたり、富山県民会館にて、日本理学療法士協会と富山県理学療法士協会の共催による管理運営研修会「リハビリテーション部門のマネジメント」 今、求められるマネジメント に参加しました。

今回、北は北海道、南は九州鹿児島と全国各地から多数の先生方が参加されていました。中には2年～3年目の若い先生も熱心に講義を受けていました。

講義では、中屋久長先生の総論をはじめ人間関係、経営・運営、自己管理、リスク管理と多岐にわたり貴重な経験や考えを聞くことができました。グループワークでは、テーマに対して話し合い、発表し議論を交わしました。

講義終了後には、講師控え室にて多くの先生方が列を作り、熱心に職場での悩みや対策について質問・相談されていました。部下の管理がうまくいかない、注意するとすぐやめてしまう、他職種との連携がうまくとれないなど深刻な内容も聞かれました。自分は職場では、最も若年でありリハビリテーション科の管理について深く考えることは今までありませんでした。しかし、今回の研修会に参加して管理に対する意識が変わりました。

これから管理職になくとも職場にあって、自分も管理の意識を強く持っていかなければいけないと感じました。管理とは、決して上から下の一方向ではなく下から上、横方向とお互いが考えて管理・行動していかなければうまくいかないと思います。

まずは自己管理をしっかりできるようにならなくては。

2日間、大変有意義な研修会となりました。

富山県リハビリテーション研究懇話会

富山赤十字病院 赤尾 健志

平成18年11月12日(日)10:00から12:30サンシップとやま(富山県総合福祉会館)で、第34回富山県リハビリテーション研究懇話会がありました。今回は、自由演題7題と主題～摂食・嚥下障害に対する取り組みの紹介～4題でした。

富山県理学療法士協会からは、富山赤十字病院 赤尾健志氏が前十字靭帯再建後のリハビリテーションとクリニカルパスについて、市立砺波総合病院 廣瀬良太氏の市立砺波総合病院における脳神経外科病棟担当制の紹介～専属リハスタッフを配置して～、厚生連高岡病院 小澤陽子氏の回復期リハビリテーション病棟における退院支援の取り組み～退院前訪問による住環境整備について～の3題の演題発表がありました。

どの演題発表にも、活発な質疑応答が見られ、非常に有意義な研究懇話会でした。



生活支援系研修会に参加して

森本 泰佳

平成18年10月22日(日)、サンシップ富山において、専門領域研究部生活支援系研修会が開催されました。テーマは、「介護保険における新リハビリサービス～忍び寄るPTへの包囲網とビジネスチャンスについて～」でした。講師には福井県越前市に拠点を持つ「(有)ほっとリハビリシステムズ」の代表取締役 松井一人氏をお招きしました。晴天の日曜日にもかかわらず、参加者はPT約60名で、松井先生の熱意に圧倒されながらの研修会となりました。

「超高齢化社会、要介護認定者の増大という大きな問題を抱えながら、地域リハビリ・在宅ケアをどのように行っていくか」を、ほっとリハビリシステムズの創業時からの軌跡および現在の事業展開の内容を元にお話していただきました。機能回復としてのリハビリである医療機関と異なり、在宅生活でのリハビリには生活回復に対する取り組みが必要となります。リハスタッフの人員定数の少ない介護保険下ではどうすればよいかとの問題に対して、リハビリ対象を個人から施設にまで広げ、施設全体のプロデューサーとして、PTは役割を果たすべきであるとの示唆をいただきました。また、4月から開始された介護予防の新事業も紹介いただきました。

急激に変化する介護保険のなかで、ビジネスチャンスを掴むPTが今後富山からは何人出現するのかしら？と思いつつ、とりあえずは、職場に帰って今回得たことを還元できればよいと考えております。

ちなみに、表紙の写真は生活支援系部員で「ほっと地域リハビリセンター福井」を見学させていただいた時のものです。とても活気のある(特に男性利用者様)デイサービスセンターでした。

ベトナムCBR体験記

高志通園センター 片山 美穂

今年8月に10日間、NGO「ベトナムの子ども達を支援する会」の会員としてベトナムのバクザン省にて、地域に根ざしたりハビリテーション（CBR）などの活動をおこなってきたので報告します。

私は今回が初めての参加でしたが、会としては15年前から活動があり昨年まではベンチェ省での活動、それがひとつの形として成功したため今年から新たな土地「バクザン省」へと活動の事業地を移すことになりました。

活動内容は会議、省立病院見学、村の診療所と家庭の訪問、目的はバクザン省の現状を見聞き、困難の状態、理由、解決方法についてバクザンの人たち自身に考えてもらうこと、でした。よって村の家庭訪問時には必ず省（日本でいう県）の方とともに活動し、現状を見てもらい一緒に考え意見の交換をしました。

村での活動の中心は家庭訪問で、主に脳性の運動障害をもつお子さんの家族に問診をおこない障害児自身の環境を含めた現状を理解したあと助言できることがある場合は伝える、というスタンスでの活動でした。

中でも一番印象深かったのは水頭症の子の家庭訪問でした。頭がとても大きくすぐにも手術が必要な状況にも関わらず貧しくて手術を受けるお金がない。摂食も困難であり母が食物を一度口に含み柔らかくしてから子供に与えている、これに対しては感染症の危険もあるためミキサーの購入を促しましたがそのお金もないくらい貧しい。すり鉢ですりつぶすなどの案も提案しましたが文化が違うため受け入れが悪く、またかえって時間がかかるので難しいとのこと。食事に時間がかかるということで何かアドバイスできないかと思い普段の抱っこの様子をみせてもらいました。大きい頭をのせた母の腕は椅子の横の部分に

のせることで工夫されており、母の下肢ではさまれて子どもは安定して座っていました。その姿を見たとき、母の大きな愛情を感じました。しかし両親のニードは「手術を受けること」であり、そのニードに対してPTができることがなかったのが悔やまれました。

また、身体に合っていない大人用の車椅子に伸展パターンを強めて落ちそうになりながら座っている脳性麻痺のお子さんもいました。座りやすいようにと、背中や骨盤周りの隙間をタオルで埋め股関節が屈曲するようにしましたが適応できず、結局慣れている崩れた元の座位姿勢に戻るのです。現地の子どもの様子からPTができることの限界や小ささを実感するとともに、逆に日々関わることの重要さを再認識し少し勇気付けられました。

最終日に昨年までの活動の拠点であったベンチェ省に寄り、障害児学校15周年記念式に参加しました。障害児は主役であり、社会全体も整っており、これからバクザン省がめざす完成形を垣間見た気がしました。徐々に変化していくバクザン省に少しでも携わり続けていきたいと思っています。この記事に興味を持たれた方はいつでも声を掛けてください。





8月26日(土)に富山市の自遊館ピアホールにて、富山県理学療法士会「第1回納涼祭」を開催しました。参加人数は、14名と少人数ではありましたが、仕事上での情報交換やプライベートな話まで、2時間半の間大変な盛り上がりでした。また、ちょうどこの日は、“24時間TV愛は地球を救う”の中継日でもあり、参加者のほぼ全員でKNBを訪問し、富山県士会よりFAXでメッセージを送ったりと、思い出に残る夏の夜となりました。

今回おしくも参加できなかった皆様。福利厚生部と致しましては、富山県士会内での交流を深めるために、常々いろいろな企画をしています。参加されることで、仕事上では得られない、年齢や経験年数を越えた深いつながりや絆が生まれ、今後の仕事においても役立てられることはまちがいないと思います。今後も、みんなで集って、お酒を酌み交わし、楽しい富山県士会の輪を作っていきます。皆様、次回お待ちしております。



転入会員紹介

平成18年度、富山県士会に転入された皆さんをご紹介します。

アンケート内容		
氏名	勤務先	一言
笹原 英希 社会福祉法人 海望福祉会		碓井 孝治 市立砺波総合病院 多少年はとっていますが、 頑張ります
田中 勝 富山医療福祉専門学校 楽しく仕事が出来れば 良いなと思っています		新谷 友佳子 市立砺波総合病院 砺波弁を学びながらPTも がんばってます
西田 範子 高岡市民病院 石川県士会より転入しました。 よろしく!		笠原 克義 医療法人ホスピター 介護老人保健施設ちょうろく 新潟からの転入です。 よろしくお願いします
酒井 春行 島田病院 一生懸命頑張ります		水島 景子 自宅 宜しくお願い致します
中村 秀恒 沢田記念高岡整志会病院 "初心忘れるべからず" 心機一転頑張ります		大堀 いづみ 自宅 慣れない事ばかりなので ご指導お願いします

「成功」の反対にあるもの

富山県立中央病院 中島 隆興

私のお気に入りの本にこんな問題が書いてありました。

黒の反対を白とするならば、「成功」の反対にあるものは何?...「失敗」!?!と私は心の中で答えました。皆様はどう答えますか?

この問題は置いといて、突然話は変わりますが、僕の名前は中島隆興(なかしまたかおき)といいます。たかおきという名前は、私の祖父が「盛んに興す」という意味を込めてつけてくれたそうです。私はこの名前から自分を想像させるのではなく、自分から名前を想像させるような人間になりたい。そうなるためにも、人間として、そして理学療法士として、一生懸命、盛んに行動を起こしていきたいと思っています。人間として26年目となる私は、プライベートではサッカー、釣り、読書、ランニング、そしてかわいい奥さんへ愛情を注ぐことなど、とても充実し、盛んに行動しています。一方、理学療法士として4年目の私は、毎日楽しく仕事をしていますが、まだまだ貧欲さが足りないようで、仕事の慣れという強敵と戦いながら、盛んに行動するように言い聞かせている今日この頃です。この「盛んに興す」ことを再認識するきっかけとなったのは、先程紹介した本の言葉です。

それでは先程の問題の回答です。本の著者はこう言っていました。

「成功」は必ず「失敗」と延長線上に存在する。「失敗は成功のもと」と言われるとおり、「成功」と「失敗」は同じグループと考える。そして、反対にあるものは「何もしない」ということ。「失敗」を恐れて「何もしない」ことが「成功」から最もかけ離れている...納得ですね。(広辞苑には成功の対義語は失敗と書いてあるじゃないか! って思われた人もいるかもしれませんが、ここはひとつ共感していただければ幸いです。)

何もしないことには成功はやってきません。チャンスがやってきても、何も気づかずに過ぎていくことでしょう。きっと毎日、大きくとも小さくとも、いろんなチャンスは巡ってきていると思います。今回はこのような独り言をつぶやくチャンスがやってきて、こうやって思っていることをカタチに残すことができました。そして、これを読んでいただいた人達から、実際しっかり行動しているのかな?ってみられるのでしょうかね。プレッシャーです...。また明日、いや、このあとすぐにやってくるかもしれないチャンスを逃さないように、たくさんの種類のアンテナを高く張って準備していこうと思います。また、なまけものの中島隆興を見つけたらハッパかけてやってください。



福江 明氏

「いきいき富山第19回健康と長寿の祭典」

で表彰される

平成18年11月8日(水)・9日(木)両日にわたり、富山県民会館を会場に「いきいき富山第19回健康と長寿の祭典」が開催されました。『人生80年時代を迎え、誰もが心身ともに健やかで、いきいきとした美しい人生を過ごせることが、県民すべての願いです。この祭典は、県民が一堂に会して、高齢者の生きがいづくりや社会参加への関心を高めるとともに、健康と長寿について共に考え、話し合い、「元気とやまの健康づくり」と「いきいきとした長寿社会」の実現を目指して』開催されました、本年度のテーマは「いつまでも 元気・生きがい・健やか人生」でした。両日にわたり理学療法士会も『理学療法紹介コーナー』を設けてさまざまな展示の仲間入りをし参加いたしました。

この祭典の開会式において表彰式がありました。今年度は大会長表彰として健康増進部門で5名7団体の表彰のなか、前々士会長の福江 明氏が表彰を受けられました。表彰項目は「健康づくり」表彰理由は「理学療法士として、地域の老人保健事業に積極的に協力し、健康相談、リハビリ指導等、地域における健康づくりの向上に広く貢献している。」との事でした、長年高岡市民病院にて地域リハビリテーション活動を展開された功績に与えられた表彰と思います。現在高岡市にある、だいが苑と「生活支援ハウスいきいきサポートセンターゆめ」に活動拠点を変更され、より地域支援の活動に活躍されておいでます。

士会員がこのような形で名誉ある受賞を受けられたことに対して心よりお喜び申し上げます。おめでとうございます。

平成18年度 第4回 理事会報告

日時：平成18年8月24日(木) 19:00～
場所：富山市民病院リハビリテーション室
出席者：塚本 田村 滝田 島倉 寺田
政井 堀尾 川合 城戸 森山
河本(書記)

報告事項

事務局報告事項：PT協会関連・他都道府県士会関連・関連団体からの事務局宛郵送物、PT週間事業についての公文書発行、会員異動状況(計7名)の報告。

医療保険部介護保険部合同小研修会：平成18年7月22日(土)、「算定日数超えの対応について」をテーマに、富山県立中央病院にて開催。参加人数は17名であった。

臨床実習教育研修会：平成18年7月22日・30日(サンシップとやま)は18名の参加であった。

理学療法基礎系研究会研修会：平成18年8月20日(日)、「自律神経機能と身体運動の相関性について」をテーマに、富山医療福祉専門学校にて開催。参加者は40名であった。

その他、第12回富山理学療法学会は「理学療法の専門性」をテーマに、サンシップとやまにて、平成19年3月11日(日)に開催。講師は伊藤克浩氏(山梨温泉病院)。循環器、呼吸ケア研究会研修会は、「心臓血管のリハビリテーション」をテーマに、平成18年11月3日(金)13:00～16:00、富山医療福祉専門学校にて予定。講師は渡辺 敏氏(聖マリアンナ医科大学病院)

検討事項

1. 納涼会計画(福利厚生部)：平成18年8月26日(土)19:00～富山自遊館ピアホールにて開催。予定参加者は45名。今後も参加者が増えるよう日程、呼びかけ等工夫していく。
2. 東海北陸ブロック士会長会議議題について

て：「専門理学療法の今後のありかたについて」となった。

3. その他：福祉事業部より、寝たきり老人ゼロキャラバン記念誌発行について報告。士会ブロック組織については、次回理事会で検討。

平成18年度 第5回 理事会報告

日時：平成18年10月12日（木）19:00～
場所：富山市民病院リハビリテーション室
出席者：塚本 田村 滝田 島倉 寺田
政井 堀尾 森山 川合 城戸

報告事項

事務局報告事項：事務局郵送物、公文書発行、会員異動状況（計10件）の報告。士会納涼会報告（福利厚生部）：平成18年8月26日（土）、自遊館にて開催。参加人数は15名であったが、普段交流の無い方々との有意義かつコミュニケーションの機会となった。

ノーマライゼーション推進事業「第25回富山市民ふれあい広場」報告（福祉事業部）：平成18年9月16日（土）、富山駅北親水広場にて開催され、富山県士会として、高齢者疑似体験、車椅子体験の運営を行った。多くの方が体験できた。

「職場管理とメンタリング&コーチング」PT協会研修会参加報告（堀尾）：平成18年9月22日（土）、星城大学リハビリテーション学院において開催され、当士会より堀尾社会局長が参加した。職場管理において重要な内容であり、県士会の代表者会議で内容を一部報告する予定である。

士会長会議報告（塚本会長）：平成18年10月4日（水）長崎にて開催された。内容としてはマスタープランについての説明、役員選挙、会員証についての説明等があった。診療・介護報酬に関して、訪問リハについての問題も大きいため、今後、県士会で調査、把握してはどうかとの提案が出された。また、士会として要

望書を提出する等の働きかけが必要ではないかとの意見も出された。

検討事項

1. 教育管理系研究会研修会計画（教育管理系研究会）：平成18年10月19～21日、県民会館にて開催予定。駐車場の確保が課題である。
2. 第3回研修会計画（生活支援系研究会）：平成18年10月22日（日）、サンシップとやまにて開催予定。講師として松井一人氏である。他収支予定報告。
3. 第6回循環器講習会計画（循環器研究会）：平成18年11月5日（日）、厚生連滑川病院にて開催予定。
4. 第4回研修会（循環器・呼吸ケア研究会）：平成18年11月18日（土）、富山医療福祉専門学校にて開催予定。講師は渡辺 敏氏である。研修会の内容については、冊子又はみんなの理学療法にしてはどうかとの意見が出された。
5. 介護予防関係者のつどい（保健事業部）：平成18年11月19日（日）、富山市障害者福祉プラザにて開催予定。新予防給付に関するシンポジウムである。
6. 北陸三県交流会計画について：平成18年11月18日（土）、金沢にて開催予定である。以前から日程について検討してきたが、時期的に研修会が重なることになった。
7. 富山県士会地区活動に関する提言（組織部）：士会員数は近年増加しており、会員相互の状況把握や交流、参加し易い士会活動にすることを目的として、県内をいくつかの地区に分け、各々の地区での交流活動を推進してゆく。県内を医療福祉圏域等を元に7地区に分け、今後その機能を検討して行くこととなった。今後、各施設代表者会議等で提案する予定である。
8. その他、平成19年度の学会については、計画時期が早まるため、今年度の予備費から会議費等を支出する

事務局インフォメーション

職能局の相談窓口

職能に対して、職能局では電話による相談を受け付けています。お気軽に何でもお尋ねください。

電話番号(0765)24 3999 FAX(0765)24 3684

魚津市健康センター 森山まで

E-mail : akira-moriyama@city.uozu.toyama.jp

その他、理学療法に対しての疑問点は、事務局で相談を受け付けています。事務局までメール等でお願ひします。

情報管理部の窓口から

情報管理部では、富山県士会の方から、士会活動の案内等、理学療法に関係があると思われる様々な記事を募集し、士会ニュース伝言板に掲載していく予定です。掲載希望の方は、富山赤十字病院水島朝美まで連絡をお願いします。

【連絡先】

〒939-0859 富山市牛島本町2-1-58
富山赤十字病院 リハビリテーション科

水島 朝美 まで

TEL (076) 4 3 3-2 2 2 2

FAX (076) 4 3 3-2 2 7 4

E-mail

rehabili@toyama-med.jrc.or.jp

各種届について

P T協会会員証カードを申し込み、その後、今春に平成18年度会費を振り込んでいるにも関わらず、会費を引き落とされたというケースがありました。これはP T協会で設定しているカード作成に伴うシステムだということです。当士会事務局より会費振込みの連絡はP T協会へ報告していますが、士会員の皆様の中で、カードを申し込まれる際には、会費支払済みの由をP T協会へご連絡いただくか、当士会事務局へご連絡願ひます。また、引き落とされた場合には直ちに返還手続きを取らせていただきます。よろしく願ひします。

編集後記

日に日に寒くなって来ました。2006年もあと1ヵ月足らず。皆さんはこの1年を振り返りいかがでしたか？自然災害や事件も多かった中、政界面でも旧内閣から安倍内閣の誕生と大きな変化がありました。旧内閣では三位一体の改革により、障害者自立支援法の施行や、診療報酬改訂など、医療・福祉面にも様々な影響が訪れました。特に施設では患者様、障害をもつ方々の自立を社会全体で見守り、QOLの向上を目指すと言われてきたが、実際には施設の利用費や食費等の負担も重くのしかかるようになりました。この状況を新首相がどう捉え、引きついでゆくのか？政治の話に疎遠な私もニュースや新聞でチェックしていきたいと思っています。もちろん、患者様のニーズやサービスの向上につながるよう自分自身の改革が一番大切なんだけど、

もうすぐ冬の到来です。風邪などひかぬようしっかり体力つけてがんばっていきましょう。